

# 決算報告

令和5年度の町の決算が9月の定例議会に提出され、一般会計、特別会計それぞれ認定されました。  
前年度の歳出は、一般会計約48億円、特別会計約28億円、水道事業会計約4億円（収益的支出と資本的支出の計）となり、総額約80億円で様々なまちづくりが進められました。

## 一般会計歳入

歳入決算総額は52億6,620万円で、前年度と比べて4,609万円、0.9%の増加となりました。  
増加となった主な要因は、高齢者福祉関係の需要額の伸びにより普通交付税が増えたことなどによるものです。  
町税は、13億4,159万円で、前年度と比べて1,225万円、0.9%の増加となりました。固定資産税や軽自動車税等が増加したことに

## 一般会計歳出

歳出決算総額は、47億9,960万円で、前年度と比べて1億1,300万円、2.4%の増加となりました。  
増加となった主な要因は、物価高騰による影響が大きい低所得世帯等に支給した給付金及び国民健康保険特別会計繰出金などの増額により、民生費が増加したことによるものです。  
なお、歳入総額52億6,620万円と歳出総額47億9,960万円の差額4億6,660万円は令和6年度へ繰り越しました。

## 目的別の主な事業

総務費  
○交通手段の確保などを目的にタクシー・バス利用券を交付し、地域交通対策事業を行いました。  
○前年度に引き続き地域おこし協力隊を委嘱し、地域力の強化と情報発信に努めました。  
○マイナンバーカードの普及と活用に取り組みました。  
○町の魅力を発信するため、プロモーション動画を作成しました。  
○県知事選挙、県議会議員選挙、町議会議員選挙を実施しました。

## 民生費

○越生町障がい者計画などに基づき、障がい者等の自立と社会参加の促進に取り組みました。  
○高齢者の自立支援や在宅福祉事業などの福祉サービスを推進しました。  
○子育て支援策として、出生祝金支給事業、こどもの医療費支給事業、チャイルドシート購入補助事業、ベビーベッド貸出事業、学童保育事業などを行いました。

## 農林水産業費

○梅・ゆずなどの特産物果樹を周知するとともに、地産地消を推進するための事業を実施しました。  
○成瀬地内の農業用水路の改修工事を実施しました。  
○埼玉県の補助金及び森林環境譲与税を活用して、水源地域森づくり、里山・平地林の整備を実施しました。  
○改植・新植を実施する農家の方々への苗木購入に対する補助を実施しました。

## 土木費

○町道1-7号線(成瀬地内)の道路拡幅改良工事を実施しました。  
○町営仲町住宅の給排水管、ガス管改修工事を実施しました。  
○生活安全の向上を図るため、防犯灯及び道路照明等の新設・修繕等を行いました。

## 教育費

○越生町教育振興基本計画に基づき、児童・生徒の教育力向上や生涯学習を推進しました。  
○国の補助金を活用して、学校給食費の保護者負担支援策として小中学校の給食費10か月分を無償化しました。

○町営樹木葬墓苑「五大尊花木墓苑」を運営・管理しました。

## 商工費

○越生スタンプ会が実施するプレミアム付き商品券の販売を支援しました。  
○越生まつり実行委員会に補助金を交付し、4年ぶりにお祭りが開催されました。  
○観光協会が実施する観光PR事業等を支援しました。  
○観光施設の整備と維持管理を行いました。

○町内のハイキングコースや案内板等の整備を行いました。

## 健全化判断比率等

令和5年度決算に基づき、財政健全化に関する比率を算出しましたのでお知らせします。  
健全化判断比率および資金不足比率は、いずれの指標も早期(経営)健全化基準を下回り、健全性を示しています。しかし、他の指標である経常収支比率は89.9%で依然と

### 健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
越生町	-	-	5.7	-
早期健全化基準	15.0	20.0	25.0	350.0

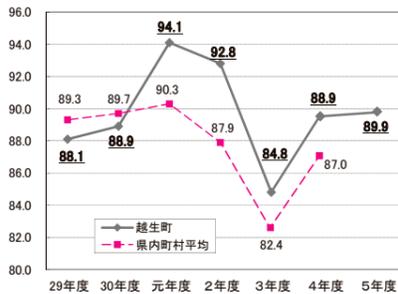
### 資金不足比率

特別会計名称	資金不足比率	特別会計名称	資金不足比率
農業集落排水事業特別会計	-	水道事業会計	-
経営健全化基準	20.0	経営健全化基準	20.0

- ・実質赤字比率：一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率
- ・連結実質赤字比率：全会計を対象とした実質赤字または資金不足額の標準財政規模に対する比率
- ・実質公債費比率：一般会計等が負担する元利償還金および準元利償還金の標準財政規模に対する比率
- ・将来負担比率：一般会計等が負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率
- ・資金不足比率：各公営企業の資金不足額の事業規模に対する比率

して高い数値にありますが、財政の硬直化を招かぬよう、健全な財政運営に努めます。また、1.0に近いほど財政に余裕があることを示す財政力指数は、0.462と低水準にあります。

### 経常収支比率の推移

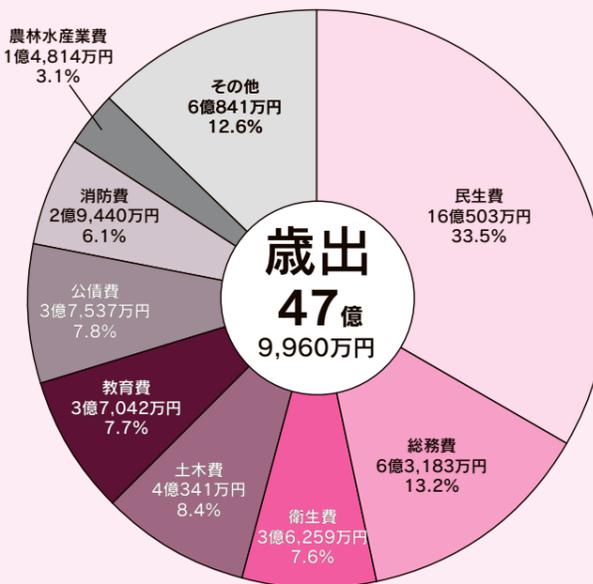


## 会計別決算

	歳入	歳出	差引額
総額	85億8,460万円	79億9,155万円	5億9,305万円
一般会計	52億6,620万円	47億9,960万円	4億6,660万円
特別会計	29億6,516万円	28億2,701万円	1億3,815万円
公平委員会特別会計	29万円	15万円	14万円
農業集落排水事業特別会計	2,369万円	2,119万円	250万円
国民健康保険特別会計	14億880万円	13億9,440万円	1,440万円
介護保険事業特別会計	13億4,189万円	12億2,244万円	1億1,945万円
後期高齢者医療特別会計	1億9,049万円	1億8,883万円	166万円
水道事業会計	収益的収支 3億2,290万円 資本的収支 3,034万円	2億8,877万円	3,413万円 ▲4,583万円

水道事業会計の資本的収入額は、前年度に比べて4,583万円は、過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

### 歳出の状況



### 歳入の状況

